

佐倉市1歳6か月児及び3歳児健康診査の実施状況について

1. 集団健診及び医師診察受診状況

(1) 1歳6か月児健康診査

	集団健診			医師診察	
	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	受診者数 (人)	受診率 (%)
令和2年度	1,081	1,010	93.4	881	87.2
令和3年度	884	852	96.4	787	92.4
令和4年度	883	855	96.8	754	88.2
令和5年度	832	808	97.1	692	85.6

(2) 3歳児健康診査

年度	集団健診			医師診察	
	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	受診者数 (人)	受診率 (%)
令和2年度	1,258	1,178	93.6	932	79.1
令和3年度	1,103	1,032	93.6	874	84.7
令和4年度	1009	941	93.3	753	80.0
令和5年度	947	922	97.4	747	81.0

令和5年度の集団健診受診率は両健診ともに97%程度だった。集団健診受診時に医師診察の受診の必要性を伝えているが、医師診察の受診率両健診ともに8割程度となっている。集団健診および医師診察の未受診理由として、『市外や海外に滞在している』『保護者の多忙』『子どもの体調不良』などで受診が困難という理由や『疾患・障害』などで既医療であるためなどの理由が聞かれた。

2. 医師診察受診結果及び精密健康診査受診結果

(1) 1歳6か月児健康診査

①医師診察結果

	集団健診 受診者数 (人)	医師診察 受診者数 (人)	医師診察 受診率 (%)	医師診察結果 (内訳人数)				
				異常なし	既医療	要経過 観察	要紹介 (要精密)	要紹介 (要治療)
令和2年度	1,010	881	87.2	827	4	36	13	1
令和3年度	852	787	92.4	723	10	41	11	2
令和4年度	855	754	88.2	685	4	49	7	9
令和5年度	808	692	85.6	652	5	24	6	5

②精密健康診査結果

	精密健康診 査受診票交 付数	受診者数 (人)	精密健康診査結果 (内訳人数)				
			異常なし	要経過 観察	要医療	要医療詳細	
令和2年度	13	11	2	3	6	陰嚢水腫2人、臍ヘルニア3人、自閉スペクトラム症1人	
令和3年度	10	10	3	7	0		
令和4年度	7	7	0	4	3	両側性移動精巣2人、先天性眼瞼下垂及び遠視性乱視1人	
令和5年度	6	6	1	2	3	左不触知精巣1人、両側移動精巣1人、臍ヘルニア1人	

(2) 3歳児健康診査

①医師診察結果

	集団健診 受診者数 (人)	医師診察 受診者数 (人)	医師診察 受診率 (%)	医師診察結果 (内訳人数)				
				異常なし	既医療	要経過 観察	要紹介 (要精密)	要紹介 (要医療)
令和2年度	1,178	932	79.1	856	18	30	23	5
令和3年度	1,032	874	84.7	810	20	21	21	2
令和4年度	941	753	80.0	691	19	24	12	7
令和5年度	922	747	81.0	685	17	29	9	7

②精密健康診査結果

	精密健康診 査交付数	受診者数 (人)	精密健康診査結果(内訳人数)			
			異常なし	要経過 観察	要医療	要医療の詳細
令和2年度	16	14	1	9	4	遠視性乱視2人、屈折異常弱視1人、自閉スペクトラム症1人
令和3年度	11	9	2	4	3	食物アレルギー1人、遠視性乱視1人、遠視性乱視及び弱視1人
令和4年度	20	19	4	9	6	真性包茎1人、遠視性乱視2人、乱視及び弱視1人、遠視及び屈折異常1人、自閉スペクトラム症1人
令和5年度	9	9	1	6	2	両側内反足1人、精神発達遅滞1人

医師診察の結果、精密健康診査の対象となった者は1歳6か月健診では6人であり、6人のうち3人が要医療となった。3歳児健診では9人が精密健康診査の対象となり、9人のうち2人が要医療となった。また、精密健康診査の結果、経過観察となった者への事後指導として、期間をおいて再受診するよう指導している医療機関が多い。

3. 3歳児健康診査 尿検査結果

	一次検査				二次検査				精密健康診査					
	検査数 (人)	検査 実施率 (%)	有所見 数(人)	有所見 率(%)	有所見結果 (内訳延人数)				対象者 数 (人)	有所見者数 (精密健康診 査対象数) (人)	精密健康 診査受診 票発行数 (人)	結果 (内訳人数)		
					糖	蛋白	潜血	小計				異常 なし	要経過 観察	要経過観察の詳細
令和2年度	1,041	88.4	28	2.7	0	10	18	28	23	8	8	3	4	血尿群(暫定診断)1名、無症候性血尿2名、血尿1名
令和3年度	894	86.6	27	3.0	1	4	22	27	29	9	9	4	5	無症候性血尿3名、顕微鏡的血尿1名、家族性血尿1名
令和4年度	780	82.9	21	2.7	2	8	11	21	20	6	5	0	4	顕微鏡的血尿継続2名、蛋白尿継続2名
令和5年度	787	85.4	40	5.1	0	23	17	40	40	14	14	4	8	無症候性血尿5名、白血球尿1名、蛋白尿1名、その他1名

令和5年度は例年と比較して一次検査の有所見率が高く、有所見結果の内訳をみると、40人のうち特に蛋白(±)以上が23人と多かった。月別に調べたところ尿蛋白(±)以上である23人のうち、6月から9月の夏季に受けた検査者が14人と半数以上を占めており、この14人の二次検査の結果、精密健康診査の対象者は1人であった。

#### 4. 保健師相談における判定状況

##### (1) 1歳6か月児健康診査 保健師相談判定

		受診者数 (人)	判定結果			要支援者の理由内訳 (上位5番目まで)		上段 要支援理由別人数(人)				発育	
			支援なし (人)	他機関管理 (人)	支援あり (人)	ことば・社会性・行動面	保護者の不安・負担	育児生活態度	保護者の精神疾患(疑い含)	虐待ケース・虐待ハリスク	下段 要支援理由別割合(%)		
令和2年度	人数(人)	1,010	610	0	400	253	49	25	13	10			
	割合(%)		60.4	0	39.6	25.0	4.9	2.5	1.3	1.0			
令和3年度	人数(人)	852	486	0	366	272	22	23	21	4			
	割合(%)		57.0	0	43.0	31.9	2.6	2.7	2.5	0.5			
令和4年度	人数(人)	855	477	0	378	288	31	14	16	7			
	割合(%)		55.8	0	44.2	33.7	3.6	1.6	1.9	0.8			
令和5年度	人数(人)	808	437	0	371	277	30	19	10	10		11	
	割合(%)		54.1	0	45.9	34.3	3.7	2.4	1.2	1.2		1.4	

##### (2) 3歳児健康診査 保健師相談判定

		受診者数 (人)	判定結果			要支援者の理由内訳 (上位5番目まで)		上段 要支援理由別人数(人)				育児生活態度
			支援なし (人)	他機関管理 (人)	支援あり (人)	ことば・社会性・行動面	保護者の不安・負担	虐待ケース・虐待ハリスク	保護者の精神疾患(疑い含)	下段 要支援理由別割合(%)		
令和2年度	人数(人)	1,178	713	1	464	418	22	2	5	10		
	割合(%)		60.5	0.1	39.4	35.5	1.9	0.2	0.4	0.8		
令和3年度	人数(人)	1,032	622	2	408	382	10	3	6	3		
	割合(%)		60.3	0.2	39.5	37.0	1.0	0.3	0.6	0.3		
令和4年度	人数(人)	941	537	7	397	352	17	5	8	6		
	割合(%)		57.1	0.7	42.2	37.4	1.8	0.5	0.9	0.6		
令和5年度	人数(人)	922	515	6	401	340	34	12	7	6		
	割合(%)		55.9	0.7	43.5	36.9	3.7	1.3	0.8	0.7		

『支援あり』の理由として最も多いのは、『ことば・社会性・行動面』の発達上の課題となっている。また、令和5年度の1歳6か月児健康診査では、『発育』に関する理由が例年と比較すると微増しており、11人のうち8人が未熟児養育医療の該当者であった。

1歳6か月児健康診査の事後支援としては、子どもが発達上の課題を持ち、かつ、保護者が育児への不安と負担から不適切な関わりに至っている場合には、親子教室の利用を促している。親子教室は、保健師と言語聴覚士のほか、公認心理士や保育士が従事している事業である。公認心理師から母子双方の心理面や親子の関わりについて助言・指導が得られるほか、保育士による子どもへの関わり方について体験を通して保護者が学ぶことができる場となっている。

3歳児健康診査では、発達上の課題を持っている可能性があるものの就園により子どもが成長することを期待する保護者は多数おり、健康診査の場ではすぐに発達支援に繋がらないことも多い。そのような場合、保護者の思いは否定せず、対象児が4歳になる頃に手紙の送付による事後確認を行っている。

5. 保護者の子育ての状況（『健やか親子21』に係る問診票設問）

(1) 子どもに対して育てにくさを感じる保護者の割合

① 1歳6か月児健康診査

設問1 お子さんに対して、育てにくさを感じますか				
回答	令和4年度		令和5年度	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
いつも感じる	6	0.7	9	1.1
時々感じる	152	17.8	144	17.8
感じない	694	81.2	653	80.8
無回答	3	0.4	2	0.2

② 3歳児健康診査

設問1 お子さんに対して、育てにくさを感じますか				
回答	令和4年度		令和5年度	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
いつも感じる	13	1.4	18	2.0
時々感じる	237	25.2	268	29.1
感じない	684	72.7	633	68.7
無回答	7	0.7	3	0.3

(2) 育てにくさを感じたときに何らかの解決する方法を知っている保護者の割合

① 1歳6か月児健康診査

設問2 育てにくさを感じたときに相談先を知っているなど、何らかの解決する方法を知っていますか。				
	令和4年度		令和5年度	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
はい	129	81.6	108	70.6
いいえ	21	13.3	34	22.2
無回答	8	5.1	11	7.2

② 3歳児健康診査

設問2 育てにくさを感じたときに相談先を知っているなど、何らかの解決する方法を知っていますか。				
	令和4年度		令和5年度	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
はい	197	78.8	224	78.3
いいえ	43	17.2	48	16.8
無回答	10	4	14	4.9

※設問2は設問1で『いつも感じる』『時々感じる』と回答した方への再設問

1歳6か月児健診よりも、3歳児健診の方が『育てにくさ』を感じる保護者が多い。『育てにくさ』を感じる要因は子ども側の因子だけでなく、保護者側の因子や親子を取りまく環境などさまざまである。

『育てにくさ』による負担感が虐待行為に転じるリスクを踏まえ、両健診では子どもの成長発達の見通しを伝えながら、子どもへの関わり方の助言を行っている。

また、妊娠期から子育て期にわたる母子保健事業全般をとおして、相談先として保健センターの存在を情報提供し、保護者の不安や負担に寄り添い支援を行っている。

6. 医療機関と母子事業の連携

(1) ことばと発達の相談室から医療機関への報告件数

	1歳6か月児健康診査	3歳児健康診査
令和4年度	12	6
令和5年度	14	10

医師診察後に、医療機関からことばと発達の相談室へ紹介を頂いた子どもについては、ことばと発達の相談室およびその他の母子保健事業にて支援の経過を『支援・経過報告書』を用いて、医療機関へ返信させて頂いている。